

2023年10月8日
第56回東京同窓会実行委員会
実行委員長 小岩井 忠
副実行委員長 二木 雅太郎

『第56回東京同窓会総会・懇親会』総括

実施概要

- ◇実施日時：2023/6/10（土）12:30～16:00 ◇実施会場：アルカディア市ヶ谷3階 富士の間
- ◇参加費：一般11,000円、準若手8,000円、若手3,500円 ※昨年から10%程度のUp
- ◇会の名称：Y! Go(よ！ごー)45回生 100周年
- ◇テーマ：「縣陵100.0 (Century)」

100周年である2023年、県陵東京同窓会も再定義しさらなる発展を遂げる年となってほしいとの期待を込めて策定。

前回報告(2023年5月合同幹事会)からの活動報告

- ・ 総会・懇親会事前準備(各種制作物作成、事前入金確認)、当日対応
- ・ 後日対応事項の推進(来賓・寄付者礼状送付、アンケート集計、会費未納者フォロー、決算対応、来期メンバー引継ぎ(マニュアルの作成・引き渡し)、総括とりまとめ 等)

活動総括

◇テーマ策定、会の名称策定

テーマは、節目の年・再スタートを感じさせるものでよかったとの意見もある一方、抽象的で懇親会・会報の企画とテーマのつながりが明確でなかったためか、結果あまり使わなかったとの声も出ていた。会の名称についても、使う機会があまりなかったとの声もあった。またテーマとはしなかったが、推進に際しては「**負荷軽減**」「**継続性**」は常に話題にしていった。

◇懇親会企画(動画「まつもと散歩」、応援団パフォーマンス)

期初に全体スケジュールを関係者と共有し、それを集まるたびに確認しながら進めるといった、**工程管理の基本を忠実に実行**することで、直前までバタバタすることなく推進することができた。

また、企画は懇親会ではおおむね好評で、いわゆる「**母校ネタ**」「**松本ネタ**」は鉄板であることを再確認した。

また、覇権の剣の歌詞で、「私の時は六十余年」「私は九十余年」など、**世代を跨いだ共通話題**が交わされている様子が見られ、**今後の同窓会活性化のヒント**になるとも思われる。

◇会報企画検討・制作支援

懇親会企画同様、期初にスケジュールを整理した上で、動きはじめを10月からとすることで、スムーズに対応できた。幹事会でも報告したように、会報制作の動き出しは1月からでは遅く、**10月頃からの動**

きはじめを標準スケジュールとすべきと考える。

◇総会・懇親会準備関連

(予算策定・会計対応)

物価高騰、アフターコロナ最初の総会・懇親会で集客状況も見えないなど、極めて不透明な状況での予算策定は非常に困難を極めたが、幹事会の協力・理解もいただき形とすることができた。特に「赤字でも構わない」とのコメントは実行委員の不安を解消させるものであった。一方どの程度の赤字なら許容されるのか、赤字が出た際どのような財政対応をするから「赤字で構わない」のかは一切語られておらず、継続性の観点では幹事会として総会・懇親会の赤字発生時の対応について早々に明確にすべきと考える。

また、このように金銭面で極めて不安定な状況だったことから、そもそも企画検討時に費用発生する企画を考えることはできなかった(経費 0 円での動画撮影・編集と応援団パフォーマンス)。これまでは総会・懇親会の収益で実行委員会の企画・活動を支える形だったが、今後は実行委員会の予算を計上する形としたほうが企画検討時の制約が減ることになると思われる。ただ財政上そのような余裕があるのかはわからず、幹事会にて検討いただきたい。

今回寄付金は予算計上しなかったが、結果予算案における不確定要素が減り、準備において予算案で心配を抱えることは無くなった。今後も寄付金を予算計上しない流れは継続すると良いと思われる。

あと今年のみの特殊事情ではあると思われるが、実行委員会の通帳受領が今年の 5 月となり、仮払金の申請打診も 5 月に聞いた状況だったため、今年は仮払金申請を行わなかった。

もともと今回は企画等で大きい費用が発生するものが無かったため困らなかったが、次回以降は 10 月過ぎに早々に通帳引き渡し、仮払金申請の案内をしていただきたい。

(会場手配・日程検討)

経費節減の観点から、会場の宴会プランは今年から「セット」プランを利用した(会場 2 時間+料理+飲み放題)とした。従来と同じ手配方法と比べ費用削減となったが、物価高騰の幅が大きく、最終的に参加費は 10% 値上げとなっている。

また、従来は「大皿ごとの課金+飲む量を予測しての飲み物提供」だったため、ドタ参等でテーブルにメンバーが増減しても問題にはならなかったが、今回のプランから「1 名ごとのチャージ」となり、当日のドタ参・ドタキャンについて 1 名単位で把握する必要が出て、その分オペレーション負荷が増しているが、費用削減の為にはやむを得ないと考えている。

日程については例年通り 6 月第 2 週土曜日=6/10 としたが、最近の子供の運動会と重なる時期で若手の集客に支障が出ている。6 月下旬など時期を見直してもよいのではないかと。

さらにハードルが上がるが、会場についてもアルカディア市ヶ谷にこだわらず他に安いところを探してもよいのではとの意見も出た。

(その場合は毎年変わる実行委員会ではなく、中期的に動ける幹事会が主導しての検討が必要)

(申込集計)

Web からの申し込みは 175 件(内出席 166 件)で、特段問題はなかった。(かつて問題になった申込確認できないとの問題は、Google Form の改善でメールの受付連絡が送付されるようになり解決している)

一方今年復活したはがき申し込み導線は、241 通受領(内出席 50 通、欠席 199 通(物故連絡 28 通含む))という状況。はがき印刷代(約 1.3 万円 @5 円)に加え、郵送費(1 通あたりはがき 63 円+別納手数料 20 円)・個人情報シール(約 4.8 万円(@18.7 円))・私設私書箱(個人情報保護 約 1.8 万円)などのコストから、**返信ハガキ 1 通あたり約 410 円**発生しており(加えてはがき出席連絡者については、手書き情報をデータ化するコストも発生している)、**はがき申し込みについては何かしらの見直しは必須**と考える。そもそも総会・懇親会の実行委員会としては**総会・懇親会への「出席」連絡だけで十分**である。確かに欠席者からのコメントもあるが、大半が「頑張ってください」「ご健勝をお祈りします」の類で、**同窓会への提言はほぼない**。そして欠席者の連絡で**重要なのは物故者の連絡**という状況に見受けられる。そもそもこのような連絡は**総会・懇親会の申込時だけでなく、常時受けられるようにするべき**である。

こうした状況から、郵送連絡については例えば以下のような改善が考えられる

- ・実行委員会の方では、**総会・懇親会の出席確認+総会懇親会で必要な情報収集のみ実施(欠席連絡は取らない)**
- ・費用削減の観点から**受取人払いはがきは取りやめ、申込記入用紙のみ送付し、郵送連絡希望者が封筒+郵送代負担の上送付する(封書送付対応により、個人情報保護シール手配も廃止)**
- ・**実行委員会に頼らない、東京同窓会として常設の郵送窓口の設置(意見提言・物故者連絡の窓口)**
(どの委員会が常設窓口を管理維持するのかについては要議論)

(集客(声掛け))

合計 230 名(60 歳以上 130 名(コロナ禍前 149 名から約 20%減)、59 歳以下 100 名(コロナ禍前 111 名から約 10%減))を目標として実施。

実行委員会としては、直接コンタクトが取れる 59 歳以下の方々中心に呼びかけ、加え Facebook による発信を実施。幹事会には上の世代の声掛けをお願いした。

声掛けに際しては、かつてあったような「動員(目標人数達成に向け片っ端から電話をする(ローラー作戦の類) 等の対応)」は行わず、来てほしい人に呼び掛ける ストレスフリーな活動ができた。

結果 230 名の目標には達しなかったが 203 人の参加申し込みとなった。但し年齢層は想定から大きく異なり、60 歳以上 86 名、59 歳以下 117 名(45 回以外 82 名 45 回 35 名)と、**参加年齢層の若返り**がみられた。

アンケート結果を見ると、SNS による呼びかけを受けての参加者はそれほど多くなく、**友人と誘い合って参加している方が多い**状況であった。

また過去の参加者名簿を管理して、集客が困難な時に活用するようにしてもよいのではとの意見も出された。

(来賓・恩師招待関連)

恩師については経費節減と、前年に松本で開催された同級会で対面できたとの理由から、招待はしなかった。

一方、来賓については、実行委員会としては特に同窓連・僚友校関係者は呼ばなくてもよいとの投げかけはしたが、幹事会としての強い意向を受け、最終的に招待することとした。その際、**同窓連・僚友校と東**

京同窓会のつながりがわかる資料の配布を提案し、資料を作成・当日の配布物に入れていただいた。
ただ、当日あまり話題にしなかったためか、アンケート含め資料について特に話題になっていない。今後
も同窓連・僚友校の関わりについては若手に対して理解してもらう活動は必要と考える。

車代について明確な基準が示されておらず、また幹事会内部でも認識が一致していなかったため、予算
検討の際混乱した(最終的に車代は同窓会関係者・同窓連・僚友校以外の関係者＝校長・恩師のみ支給
を確認)

また、車代・手土産代の金額についても経費節減の為見直しを提案したが、幹事会の意向から従来通りと
した。

あと、招待した来賓の代理が出席することになった時の対応が担当によって異なり、混乱が生じた。来年
以降は、一般的な「代理出席者に改め案内は出さない」というオペレーションを幹事会内で統一するべき
である。

ちなみに来賓への送付物について、今年は「案内状(返信不要)」「礼状」「(スピーチする方のみ)お願い状
(短時間でのあいさつの依頼)」のみを送付した。

ただ礼状について他同窓会は送付していないところがほとんどであり、東京同窓会も来年からは送付廃
止してもよいと考える。

(総会・懇親会費事前入金確認)

財政委員会と連携して入金情報を確認したが、どうしても人を介しての確認となり、入金確認対応には
相応の負荷がかかった。通帳等を渡すのは問題があると思われるが、会費入金対象口座についてすべて
オンラインで確認できるよう申請を行い、実行委員会は財政委員会から貸し出される ID を使ってオンラ
イン経由で実行委員会が直接入金情報を確認できるようにするとより効率的になると考える。

オンライン化については早々にご検討いただきたい。

(学校からの配布物手配)

総会指導委員長からの強い意向もあり、学校側に手配を呼び掛けたが(メール・電話)、残念ながら学校関
係者からは校長先生以外一切反応はなかった。(学校側は事務長とも電話で会話したが、関係者から後日
連絡とのコメント以後応答なし) ※校長先生には来賓の件での連絡対応をトリガーに連絡が取れ、調整
もできた

校長先生も当初配布物手配には否定的で、「今年に限り」との前提で資料提供をしてくださった経緯もあ
る。(Web サイト、SNS 等からの発信を見てもらいたいとの意向)

※ただ最近 Web・SNS 更新に手を回せていないため、来年も 1 回は校長先生に声掛けしてほしいとのコ
メントを頂戴している。

直近はともかく、中長期的には学校側からの紙ベースでの情報提供は厳しいことが見込まれ、その点も
踏まえた対応が求められる。

(キャンセル料発生タイミング・配布物最終準備)

今年はキャンセル料発生タイミングについて、会場キャンセル料発生時期のことも踏まえ 6/3(土)とする
方向で打診したが、総会指導委員長の強い意向を受け、6/5(月)とした。

しかし、結果として出席者名簿・名札作成・テーブル割の最終化検討に着手できたのはキャンセル料発生しメンバーがほぼほぼ確定する6/5(月)となり、平日仕事をするメンバーにとっては非常にタイトなスケジュールとなった。

極力キャンセルできるタイミングを開催日直前にしたいとの意向も理解できるが、キャンセル料発生日を会場キャンセル料発生と同日の開催日前土曜日とし、土日に名簿作成など各種作業ができるよう配慮いただきたい。

(その他)

同窓生の方から、ビールの銘柄を特定のものにするよう打診され、会場側に一時手配をする事象が発生した。こちらについては実行委員会の方から公平性の観点から懸念を示したところ、会場側の手配についてキャンセルされた。

また、幹事会の電話連絡先リストが欲しいとの声もあった(すぐ確認したいときにメールでは大変)。(役員リストが欲しいとの声もあったが、実際には既に存在しており、周知が不十分だったと考える)

◇総会・懇親会当日

(準備関連)

概ね問題なかったが、事前に送付されたものの一部は直接手渡しをしたかったものについてもそのまま来場者配布用袋に封入をしたということがあった。

当日多くの配布物等が会場に直接送付され、その多くが来場者配布用袋に封入することになるため、来年以降直接配布したいなどの意向がある場合は、前もって実行委員会に伝える、早めに来場して自身で配布物を管理するなどの対応をしていただきたい

(受付誘導・ロビー対応)

受付については文具の準備について反省事項はあったが、大きな問題はなかった。

またアルカディア会場前に法被を着用させた誘導スタッフの配置を今年はやめたが、特段問題にはならなかった。

当日ドタ参についてのオペレーションについては十分整理できていたが、当日キャンセルと当日ドタ参が同時に発生した時の対応(連絡体制含め)の整理が不十分で、やや混乱が生じた点があった。

事前に打診を受けて設置した「縣陵 OBOG の著書紹介コーナー」についても一定の反響があった(懇親会での発表含め)

(総会進行)

極めてスムーズに進み、予定よりも前に総会は終了した。多くの説明者が時間厳守で説明いただいたこともあるが、移動時間短縮のための工夫が特に大きかったように思える。

経費節減の観点から来賓の待機スペースを総会・懇親会会場の一角に設けたが、総会中待機していた同窓連・僚友校関係者の話し声が総会進行中会場に響く事態が発生した。

コストをかけて再び来賓控室を設置するのか、そもそも同窓連・僚友校招待を取りやめる(総会中待機する来賓がいなければ当然話し声も出ない)など、何かしら改善が必要と考える。

なお実行委員会の担当領域ではないが、書記について「書いているふり」から「実際に記録する」ことを受け準備するとしていた「議事録のフォーマット」が最終的に用意されず、書記担当の2人が自ら準備することになったことについて書記担当が苦言を呈していたので、その点は今後改善いただきたい。

(懇親会進行)

来賓挨拶、乾杯挨拶については、長年「長い」とのコメントが出ていたが、今年はほぼ予定時間通りにスピーチをしていただき、その分「歓談」の時間を長くとることができた(アンケートでも好評)。

その他アクションも概ね予定通り進行した。

ただ、とある同窓生からの急な打診で、当初予定していなかった「東京・松本マラソン完走報告」が急遽挟み込まれた。

最終的に完走報告自体は懇親会で相応に盛り上がったが、この調整によるバックヤード側の負荷はかなり高いものとなっており、事前に同窓会幹事会などを通して申し込むことはできなかったのか、今後このような事態があった時に今回のように受け入れてよいのかについては、幹事会も交えスタンスを整理したい。

最後の全体写真撮影時、声を通らず指示が参加者に通らない状況が発生した。来年以降はカメラマンがマイクを持って上がるよう段取りを組みたい。

なお、アナウンス文の敬語表現ルールの見直し(東京同窓会関係者は呼び捨て それ以外の方々は敬称付け)、校歌・信濃の国での指揮者登壇の廃止を行ったが、特段問題にはなっていない。

(終了後オペレーション)

アンケートについては会場机に置くよう誘導はしたが、多くの人は例年通りそのまま会場から持ち出し受付付近で提出しようとする人が出てしまった。最終的には一部実行委員会メンバーの気遣いで無事アンケートは回収できたが、終了後のオペレーション設計が十分でなかった点は反省事項となっている。

(その他)

出席者リストに勤務先を記載されていると良いとの声もあった(参加した大学生からのリクエスト)

◇総会・懇親会終了後

(はがき・Web 申し込み情報集計要請)

もともと総会・懇親会の為に「出席者」の情報については集計していたが、幹事会から「欠席者」含めた情報の集計を要請された。しかし Web からの応募はともかく、はがきデータの集計には相応の負荷もかかることから集計の目的を確認し、理解・共感できる理由が確認できれば集計の協力も行う意向だった。しかし最終的には「過去もやっていたから」以上の理由が出なかったため実行委員会として引き受けず、最終的に幹事会ではがき本体を回収、集計等するとなった。

一時期「外部に委託する」との話も出たが、個人情報保護法の観点から情報収集時に外部委託する旨記載

していない状況での委託は法令違反であり、そもそも東京同窓会のデータは同窓会関係者で極力取り扱うようにするべきとの声もあり、対応には十分な注意が必要と考える。

(当日キャンセル者 キャンセル料回収対応)

当日払い予定の当日キャンセル者が3名発生し、キャンセル料回収対応を実施した。1名は同級生の呼びかけ(出欠を間違えて送付)、1名は2回目の連絡を受け支払っていただいたが、1名はまだ支払っていただけていない(9/4時点)

こちらについても最終的に支払われなかった場合にどのようにするのか都度検討するのではなく、幹事会としてのルール・指針決定が必要と考える。

(運用マニュアルの作成/引き渡し・第57回支援)

例年似たようなことをやっているにもかかわらず、「マニュアル・手順書」に相当するものがなかった(目次レベルの文書や特定の作業の手順書はあるが、全体を俯瞰した手順書はなし)。このため、今回「**運用マニュアル(60頁程度)**」を作成し、次回実行委員会メンバー・総会指導委員会に渡した。

また、46回メンバー(第57回実行委員会)には45回メンバーから運営に際しての積極的なサポートをすることを伝えている。

(会計対応)

27万円以上の寄付金を頂いたこともあり、最終的には40万円超以上の黒字を計上することができた。

ただ寄付金・キャンセル料を集計から外した場合の収支は10万円程度の黒字に留まっている。

過去資料には過去の実績から20万円程度の黒字が望ましいといった記載もあるが、**20万円程度の黒字を目指すべきなのか、プラスマイナス0でも良いとするのかは、幹事会として見解を整理いただきたい。**

あと会計報告は9月(今回は10月)の合同幹事会でされればよいと聞いていたため、9月での報告を目指して集計を進めていたが、7月末に実施された代表幹事会開催の1週間前に代表幹事会で報告してほしいとの依頼が入った。急ぎ状況整理の上報告はしたが、報告が必要なのであれば**1年前の活動計画のタイミングで7月に概要報告**をすることを事前に連絡していただきたいかった。

◇その他

(幹事会と実行委員会のコミュニケーション)

会社によっては会社メールアドレスに私用連絡を入れることを禁止し(正しくは、監視されている)、また私用メール等を会社端末から閲覧することを禁止しているところがある。

このような会社に勤めているメンバーは、同窓会関連のメールを確認できるのは業務終了後からとなり、結果 幹事会からの連絡が昼間に送付され、実行委員会からの連絡が夜間深夜(22時~26時)にやり取りされることも多かった。(まるで海外拠点と連絡を取り合っているようであった)

今後このように**同窓会関連の活動が平日日中に出来ないことも考慮し、連絡対応等**していただきたい。

そもそも、メールの多くを占めていた**タスクの説明・進捗確認は事前にタスク説明の上チェックリスト化し、進捗はチェックリストの確認レベルで済ませばよく、**来年以降改善を検討いただきたい。

(幹事会と実行委員会の連絡にLINE WORKSのようなコミュニケーションツールを導入して効率化する

ことも考えられる)

また、幹事会とのやり取りの中で「伝統的に過去もやっていた」「過去と同様に」などと、特に合理的な理由がないまま過去のやり方を踏襲するよう求めるケースが散見された。

少なくとも過去は「過去のやり方」で問題がなかったと思われるが、「過去のやり方」が現時点で合理的であるとは言えない。そのため今後においては「過去の手法は今でも合理的なのか」を常に意識しながら投げかけをしていただきたい。

(実行委員の負荷)

全体的には過重な負担にならず、各自できる範囲で対応できたが、一方で特定メンバーに過重な負担がかかる状況が発生していた(その人が離脱すると懇親会は中止になるような状況)。今後も実行委員として協力いただけるメンバー確保が難しい、1人当たりの負荷を増やせない状況の中、これまでも負荷軽減の取り組みは行われていたが、さらなる負荷軽減の施策は必要と考える。

以上